

大釜 登山道を歩く。



距離：約 800 m
所要時間：約 35分
植物お楽しみレベル



歴史お楽しみレベル



ハイキングレベル



(登山道が整備されているため
歩きやすい)

登山道入り口：

達目ハイキングコース

達目ハイキングコースから東山南斜面を登り、鼻高ハイキングコースを接続する登山道。下側では、竹林やヒノキ植林もみられて、かつて達目洞集落の里山として利用された形跡が見られます。登るにつれてツブラジイなどの照葉樹林が多く見られます。

COURSE GUIDE

里山の名残り ①



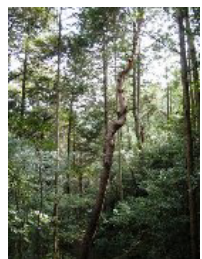
大釜登山道の入口付近で見られるお茶の木やマンリョウは、昔の人たちが垣根や庭先に植えるなどし利用した跡だと言われています。現代のように里山が昔に比べて活用されなくなると荒廃が進むにつれて、お茶の木やマンリョウは自生し現在の形で定着したと考えられています。

イノシシのぬた場 ②



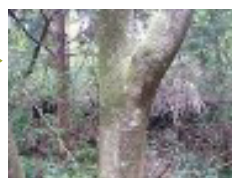
イノシシは、体についたダニや寄生虫をとるためや体温調整するために泥浴を行います。泥浴びをする背中をこすり付けているイノシシの姿が「ぬたうちまわっている」ように見えるため、イノシシが泥浴びをする場所をぬた場と呼ばれています。

アカマツの林 ③



大釜登山道では、アカマツが多く茂っているのを見ることができます。このアカマツも金華山がかつて里山として活用されていた痕跡だと考えられます。それは、アカマツがかつてあった自然林を薪や炭など生活の材として人が活用してきた二次林であるためです。

夜になると眠るネムノキ ④



大釜登山道の中腹では、ネムノキが見られます。ネムノキは、枝につけた葉を昼間は開いているのに、夜になると閉じるという特徴を持っています。この行動が木が眠るようだからネムノキという名前の由来になったと言われています。

薄暗いアラカシの林 ⑤



鼻高接続部分に近づくにつれて、森が暗くなります。これは、アラカシなどの一年中青々とした葉をつける常緑高木が、空を覆うため太陽の光が森に入らないため薄暗い森になります。登山道入口と比較してみると植生が代わっていくのを感じるはずです。

鳥が集まるヤマハゼの木 ⑥



鼻高ハイキングコース接続部分では、ヤマハゼが見られます。ヤマハゼは、5～6月頃に光沢のある黄色がかった実をつけます。この木の実は高カロリーであるため、実がなる時期になると鳥たちがヤマハゼの木に集まってきます。

くわしくは裏面へ

大釜登山道の植物の移り変わり



大釜登山道は、達目ハイキングコースから東山南斜面を登り、鼻高ハイキングコースへ接続する登山道です。

達目ハイキングコースとの接続部分では、竹林やマンリョウ・チャノキなどが見られ、かつて達目洞の里山として活用されていた痕跡を現在も見ることができます。登山道の脇では、里山として活用されていた時に詰まれたと思われる石積みも現在も残っています。

中腹では、ヒノキの植林やアカマツ林などが見られます。林へ陽の光が差し込むため、コシダやウラボシなどのシダ類が豊富で登山道までみ出し成長しています。

登るにつれて、ツブラジイなど冬でも青々とした葉をつける常緑広葉樹の森が広がるため、昼間でも光が入らず薄暗い森が広がります。薄暗い常緑広葉樹の森では、シダ類などの下草がほとんど生えておらず、日の当たらないところでも成長ができるサカキやヒサカキなどの木が観察できます。

達目ハイキングコースの接続部周辺のかつて里山であった所の植生と登るにつれて広がるツブラジイなど薄暗い森と森の植生では、生えている植物の違いに気づくはずですよ。

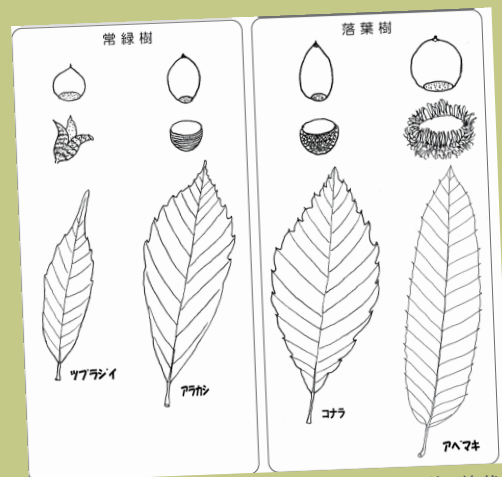
金華山のどんぐりの見分け方！！

金華山では、秋になるとどんぐりを実らせる木が4種類あります。

どんぐりは、その形から種類を見分けることもできますが、どんぐりの帽子で見分けるのがもっとも簡単です。

どんぐり全体を包み、先が割れているのはツブラジイ、しましま模様ならアラカシ、ウロコ模様はコナラ、もさもさと毛が生えたような帽子ならアベマキです。

また、アベマキはどんぐり、樹皮ともにクヌギとそっくりですが、岐阜市では野生のクヌギを見ることはほとんどありません。アベマキとクヌギを見分けるポイントは葉の裏側にあり、アベマキは葉の裏に細かな毛が密生し、白っぽく見えますが、クヌギは毛が生えておらずスベスベして緑色です。



イラスト／宇佐美 佳代



<イノシシの水浴び場>

金華山で見られる動物の痕跡？

金華山を登山していると大釜登山道のぬた場のように、金華山に住む動物の痕跡が見られます。

例えば、登山道の道の真ん中で動物のフンを見つけることがあります。これは、小動物が犬のマーキングと同じように、縄張りの誇示と道標として行なうといわれています。その他にもイノシシが木の根を食べるのに掘返した後や獣道などが金華山では多く見ることができます。

達目コースとの接続部で見られる植物

達目ハイキングコースは洞地形の谷底を利用しているため接続部周辺の湿度は高く、イズセンリョウやフユイチゴなど多彩な低木に出会うことができます。また接続部分では、樹齢の異なる2層のヒノキ植林があり、このような植林の林を複層林と呼びます。

